

活動レポート

地域産業研究会

文責：地域産業研究会幹事長 須川清一

総会特別講演

「森林・林業の動向について」

北海道森林管理局 後志森林管理署 署長 木谷三男

1. はじめに

地域産業研究会では、地域活性化分科会の森林グループが後志地域の森林に関する研究を継続的に行っている。また、昨年南後志地域の「北限ブナ林見学会」を実施した。この見学会に当っては、後志森林管理署の皆様に見学地の設定や現地の案内などで大変お世話になった。さらに、寿都町、島牧村、黒松内町の3町村を含めた情報交換会で「森林等の地域の魅力と課題に関する意見交換会」を行い多くのことを学ばせて頂いた。

今回の特別講演は、後志胆振の広大な国有林の管理を担当している後志森林管理署の事業について、最近の状況をお聞きしたいとの思いから企画されたものである。

2. 講演の概要

1) 後志森林管理署の概要

後志森林管理署の区域は、北は神恵内村、東は、伊達市(旧大滝村)、南は登別市、西は島牧村までの44万haに及んでいる。

表 後志森林管理署の面積概要

区分	面積(ha)	比率(%)
区域面積	440,343	100.0
森林面積	323,520	73.5
民有林	193,700	59.5
国有林	129,820	40.1
管理面積	129,820	100.0
国有林	129,690	99.9
官行造林地	130	0.1
うち自然公園	26,685	20.6
保安林	125,451	96.6
保護林等	2,881	2.2

区域内の総面積44万haのうち40.1%に当たる約13万haが国有林である。また、国有林のうち12.5万haが保安林の指定を受けている。後志森林管理署は、実に広い区域の国有林の管理を担当している。

森林管理区の特徴は、支笏洞爺国立公園、ニセコ積丹小樽海岸国定公園等に指定され、森林・自然景観に恵まれており、豊富な温泉資源と相まって、四季を通して自然とのふれあいの場とし、多くの人々が利用している。



区域内の国有林は、ブナ林の北限地帯であり、「歌才植物群落保護林」、「狩場山植物群落保護林」の設定がなされている。また、また貴重なブナ林の復元に向け森林管理署と地元関係機関等が連携して「北限のブナ林復元プロジェクト」の取り組みがなされている。

区域内は、ニセコ山系及び洞爺湖、登別温泉等のレクリエーションエリアでもあり、国有林を活用したスキー場には、オーストラリア人をはじめ、多くの海外の利用客が訪れている。また、有珠山をはじめ日本海側では治山工事が行われている。

2) 低コスト・高効率作業システム

低コストのシステムの一つは、表土ブロック積み工法である。この工法は、崩れにくい作業道により路網整備を行う方式で、初期投資はかさむが間伐2～3回に利用できる方式である。

もう一つの工法は、高効率作業システムである。この工法は、高性能林業機械を利用した間伐等の施業方式でハーベスターにより、伐倒・枝払い・造材を行うもので、通常の工法と比較して人員で半数、行程を3倍程度のスピードで行うことが可能である。ハーベスターは、バックホーの先にアタッチメントとして装着するもので、伐倒し、枝を払い、一定の長さに整えるところまで機械が行うものである。平地での間伐や伐採作業は、高い性能で展開することができるが、急傾斜等では従来の方式と組合せて実施するとのことである。



一方、木材の素材価格は、平成に入り低下の一途をたどった。特にスギは、トドマツに比べて価格低下の幅が大きいとのこと、このような点が低コスト・高効率作業システムの導入の要因でもあるようである。

3) 森林・林業再生プラン等の施策

農林水産省は、2009年(平成21年)12月25日に「森林・林業再生プラン」を発表しており、木谷署長はこの新しいプランについて説明された。

再生プランの目指すところは、2つで木材の安定供給の強化による雇用も含めた地域の再生、路線・作業システム整備と人材育成の森林計画制度の見直しによる木材自給率50%(2020年まで)の達成である。

① 林業経営技術の高度化

- ・ 路網、作業システム：高密度路網と機械化の普及

- ・ 森林組合改革、民間事業者：民間事業者の育成強化
- ・ 日本型フォレスター制度の創設、技術者等育成体制の整備：システム化、体系化による人材育成

② 森林資源の活用

- ・ 国産材の加工、流通構造：加工から流通の体制整備
- ・ 木材利用の拡大：住宅、公共施設への利用及びバイオマス普及の推進

③ 国民の財産を活かす

- ・ 国有林の技術力を生かしたセーフティネット：公益重視の管理経営の強化

④ 制度面の整備、森林計画制度の見直し、経営の集中化

- ・ 森林情報の整備、森林計画精度の見直し、経営の集中化：森林モニタリング調査、経営意欲の高い者への経営の集中
- ・ 伐採、更新のルール整備：伐採更新対策の整備
- ・ 補助金、予算の見直し：補助金メニューの簡素化
また、新たな施策では、林業生産の効率化との関連で路網の水準について密度を上げれば管理コストが増加するとの現場での取り組み状況との比較において説明された。

3. おわりに

本講演を通して森林が抱えている木材価格の低下、一方で、CO₂削減などの公的機能を担う森林の重要性、作業等の低コスト化に向けて現場でさまざまな取り組みを検討していることなどを知ることができた。特に、ハーベスターを利用することにより条件の良い場所ではほぼ機械によって間伐や伐採などが可能であり、直接人手をかけないで低コストで行うことができるようになっていくことを知ることができた。

森林・林業再生プランでは、10年を目処に外材に打ち勝つことを目指しているが、大きな価格差があるなかでどのように低コスト化を図り、さらに新たな木材需要を作り出し、実現させるための方策や地域の雇用や再生につなげるかなど課題が山積みのものである。